



しゅん工に向けた様々な取り組み

＜厳冬期訓練-電源喪失時の訓練と参集訓練＞

1. 厳冬期訓練

当社では、厳冬期や夜間といった厳しい作業環境下においても迅速かつ的確に事故の収束対応ができるよう、様々な訓練を行っています。2月は夜間の電源喪失時の訓練と参集訓練を実施しました。

【電源喪失時の訓練（夜間）】（2/11実施、約70名参加）

外部電源(2回線)が喪失し、再処理事業所内の非常用ディーゼル発電機(6台)もすべて使用できない場合には、電源車(7台)を使用して各建屋に電気を供給します。訓練では電源車を起動し、電源車へのケーブルの敷設や繋ぎこみなど電源復旧の手順を確認しました。また、水素爆発の防止のために空気を送り込むコンプレッサーを起動させて、これらが確実に実行できることを確認しました。



電源車から建屋にケーブルを敷設



電源車へのケーブルの繋ぎこみ

【参集訓練】（2/6実施、約30名参加）

大規模地震の発生等を起因とした重大事故等が夜間・休日に発生した場合、初期は再処理事業所内に常駐している要員にて事故対処を行います。その他の支援や交替の要員は、車などが使用できない場合、六ヶ所村の尾駮地区の寮に参集し、歩いて事業所へ移動します。当日は、参集場所で、班編成、役割分担など体制整備に必要な時間、移動におけるルート上の危険箇所の確認を行いました。また、移動途中には衛星携帯電話を用いて緊急時対策所との連絡や情報共有が確実にできることも確認しました。



参加者でミーティングを実施



再処理事業所へ徒歩で移動

今後、厳冬期に取水源である尾駮沼が凍結することも想定した沼からの取水訓練や貯水槽までのホースの展張訓練等を実施する予定です。

2. 原子力防災訓練

3月6日に再処理事業部において、規制庁を交えた防災訓練を実施します。訓練では、冷却用の水を施設へ供給するためのホース展張や重機によるがれき撤去、放水砲の操作訓練等も行います。

今後も、地域の皆さまにご安心していただけますよう、様々な事象を想定した訓練を繰り返し行い、万の際にもプロフェッショナルとして、しっかりと対応できるよう取り組んでまいります。